

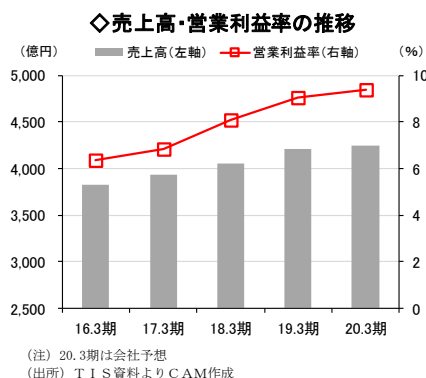
企業ニュース TIS

(東証1部 : 3626) <https://www.tis.co.jp>

作成者: 村上大志

国内大手システムインテグレーターの一角

1971年、創業。国内大手S I (システムインテグレーター) の一角。金融や製造、流通・サービス、公共など幅広い顧客基盤を有しており、代表的な顧客はJ C Bや旭化成、サントリーグループ、コマツ、三菱UFJ銀行、東京ガスなどが挙げられる。クレジットカードの基幹システム開発に強く、国内市場シェアは約50%である。独自の品質マネジメントシステムに基づき品質・生産性・技術力の向上に取り組んでおり、粗利益率は改善傾向である。中期経営計画ではストック型のI Tサービス拡大に注力し、21. 3期の売上高4, 300億円、営業利益430億円、営業利益率10%を目指す。19. 3期のセグメント別売上高構成比はサービスI T25%、B P O8%、金融I T25%、産業I T41%、その他1%。



事業戦略が奏功し営業利益率が改善傾向

20. 3期・第1四半期 (4-6月) の連結業績は売上高が1, 010億円、前年同期比5%増、営業利益が81億円、同38%増。サービスI Tでの決済関連ビジネスの拡大やE R P更新需要の高まり、産業I Tでの顧客のI T投資拡大を受け業績は好調に推移した。特に産業I Tでは電力・ガスのシステム改革に伴い活況が続いている。金融I Tはクレジットカード系で大型開発案件の反動減の影響が40億円あったが、大手銀行のI T投資の増加等でカバーした。営業利益率は8. 0%、同2. 0ポイント改善。生産性の改善や不採算案件の抑制が寄与した。

20. 3期の会社計画は売上高が4, 250億円、前期比1%増、営業利益が400億円、同5%増。先行投資コスト25億円を打ち返し増益の計画。第1四半期は出足好調で顧客のI T投資動向も堅調に推移しているが、世界景気の先行き不透明感から会社計画は据え置いた。事業環境は良好で、ソフトウェア開発の受注は高水準が続いている。構造改革の推進や不採算案件の抑制、選別受注の徹底で今後も利益率の改善が見込めよう。

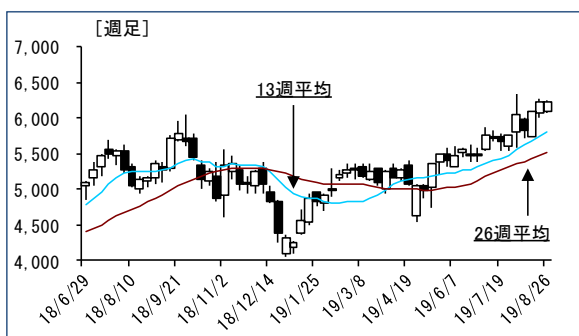
[株価動向・投資判断]

好調な業績を受け、株価は上昇し高値近辺で推移している。現在見えている不安要素は少なく会社計画の達成に期待できよう。

<3626 TIS 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18. 3	405, 648 (3)	32, 743 (21)	32, 795 (21)	20, 620 (26)	241. 4	40. 00
19. 3	420, 769 (4)	38, 043 (16)	38, 603 (18)	26, 034 (26)	307. 8	70. 00
20. 3 予	425, 000 (1)	40, 000 (5)	40, 500 (5)	27, 100 (4)	323. 8	80. 00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2019/8/26)	6, 230 円
年初来高値 (高値日)	6, 340 円 (19/8/2)
同 安値 (安値日)	4, 105 円 (19/1/4)
予想P E R (20. 3 予)	19. 2 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2, 767. 9 円
P B R	2. 25 倍
予想配当利回り	1. 28 %
(1株当たり配当金年80. 00円)	
R O E (19. 3)	11. 5 %
発行済み株式数	8, 779 万株